

### 第3回 門真市水道事業基本計画策定委員会会議録（会議の概要）

1. 日 時 平成20年1月15日（火） 午後1時00分から午後3時45分まで

2. 会議会場 門真市役所別館3階第3会議室

3. 出席委員 植村興委員長、日野和則副委員長、葭田正子委員、  
池田博美委員、堀真佐司委員、齊藤須磨夫委員

#### 4. 議 事

1. 門真市水道事業管理者職務代理者門真市水道局長あいさつ

2. 水道局職員紹介

3. 門真市水道事業基本計画策定委員会委員長あいさつ

#### 4. 会議

（1）前回（第2回）基本計画策定委員会の会議の概要について

第2回基本計画策定委員会の会議の概要のまとめを、水道局から説明し、門真市ホームページ及び情報公開室に収録、公開することを確認した。

（2）前回（第2回）基本計画策定委員会のご質問、ご意見について

第2回基本計画策定委員会のご質問、ご意見を整理し、補足資料により水道局から説明した。

（3）水道施設の耐震化に伴う国庫補助申請について

緊急時給水拠点確保等事業として、上馬伏配水場に設置する緊急遮断弁設置工事業の概要、評価、総括について水道局から説明し、事前評価について委員からの意見を聞いた。

次回（第4回）基本計画策定委員会で職務代理者（水道局長）に緊急時給水拠点確保等事業事前評価について意見具申することを確認した。

（4）門真市水道事業基本計画（素案）について

門真市水道事業基本計画（素案）を水道局から説明し、基本理念、基本施策、主要施策、中期施設整備計画、中期経営計画等について委員からの意見を聞いた。

また、市民意見の聴取のため、門真市水道事業基本計画（素案）を公開すること及び市民意見に対する局の考え方を、後日公開することを報告した。

（5）門真市水道事業基本計画策定に関する意見具申について

門真市水道事業基本計画（素案）については、なお、委員の意見を十分に聞く必要があるため、事務局において委員個別に意見を聴き、それを踏まえて意見具申（案）を作成することを確認した。

次回（第4回）基本計画策定委員会で職務代理者（水道局長）に意見具申することを確認した。

## 5. 次回開催日程と検討項目について

次回（第4回）基本計画策定委員会は、平成20年2月22日（金）午後1時から門真市民交流会館「中塚荘」で開催し、門真市水道事業基本計画に関する意見具申の検討及び意見具申することを確認した。

## 6. 委員会での意見等

### 資料の作成について

（委員）

資料の年号表示は全て平成だが、厚生労働省は西暦でも表示している。西暦、和暦の使用が間違いやすいのではないか。

（水道局）

西暦の取り扱いについては、平成の年号の後に括弧書きで西暦を付け加える等、基本計画策定時に工夫したい。

（委員）

いろんな分野で、西暦・平成と年号の使い方で、若干整理できていないこともあると思う。昭和から平成に変わるとか、年号が変わった時は、分かりにくいのが、平成になっているので平成でよいのではないか。

最終的に意見具申を出す時に、委員の皆さんのご意見を確認したい。

### 前回（第2回）委員会のご質問、ご意見について

#### 経営指標の推移について

（委員）

不良債務比率と累積欠損金比率、0というのは全くないということか。端数処理すると0になるのか。

（水道局）

不良債務比率と累積欠損金比率は発生しない。

#### 水道施設の耐震化に伴う国庫補助申請について

（委員）

水道施設の耐震化に伴う国庫補助事業の事前評価については、第三者で構成されている本基本計画策定委員会が該当するのか。

（水道局）

事前評価は、学識経験者など第三者機関からの意見具申が必要であり、財政計画、将来計画などの審議をお願いしている今回の基本計画策定委員会を、補助事業の事前評価についての意見具申の機関と考えている。

（委員）

緊急遮断弁設置工事は、補助事業に該当することなので、当然、財政的な見地から有効的に活用する必要がある。当然な国庫補助申請だと思う。

（委員）

国庫補助申請については、必要と思う。

この緊急遮断弁は泉町浄水場にはすでに、設置されている。

今回は上馬伏配水場に緊急遮断弁を設置する計画であるが、門真市は、これを設置することによって、市全体が緊急事態に対して対応できるようになることを強調していただきたい。

(委員)

コスト・ベネフィット(費用便益)分析の換算係数とはなにか。何を換算するのか。総便益の換算係数 21.48、総費用の項目では、換算係数が 0.98 と 1.13 という数字だけが挙がっている。

効率性に関しての費用便益比で、22.07 は極めて高いが、なぜか。

(水道局)

費用便益比は、事業の投資効率性を判断する上で一般的に評価指標として採用されている。

換算係数は、日本水道協会発行の「水道事業の費用対効果分析マニュアル」で、構築物又は機械及び装置を一体として償却する場合、配水設備の費用の換算係数は 0.98 配水管及び配水管付属設備の費用の換算係数は 1.13、機械及び装置は 1.85 と定めている。また、便益としては、ボトルドウォーターの備蓄を想定した。その場合の便益の換算係数は 21.48 である。

費用便益比が 1.0 以上であれば当該事業は社会経済的に効率的であると判断されるが、高価なボトルドウォーターで比較するので高い率となる。

(委員)

補足すると、換算係数は 50 年間の総経費に換算するための係数である。

例えばボトルドウォーターの場合の 50 年間の経費としてどれだけ掛かるか計算したら減価償却との絡みも考慮して 21.48 という係数が出てきた。費用対効果分析マニュアルの中に数字がでている。

ボトルドウォーターで賄うと費用便益比が 22.07 になり、当然、高くなる。

ボトルドウォーターを買うよりは施設整備する方が安いというのが、効率性の評価だと思う。

特に水の確保という面のみに関しては、必要だと、直感的に分かる。

事前評価の審議に厚生労働省の評価実施要綱の評価実施細目に即して審議を進めたとしているが、水道事業の費用対効果分析マニュアルを使ったことも書いておけば全ての人にご理解していただける。

## 門真市水道事業基本計画(素案)について

### 業務分析 P I 指標について

(委員)

水道事業ガイドラインに基づく業務指標は、算出した指標を全て載せるということであるが、この評価で何をどういうふうに見るのか、だから門真市はこうだ、という文章は入れないのか。

(水道局)

業務指標は、平成 17 年度の統計書に基づいて算定し、全国平均値、事業規模の類似

事業体の平均値との比較で、経営状況を分析している。

なお、類似事業体については、給水人口規模、水源、有収水量密度の3項目によって行い、それぞれの分析項目ごとに評価を掲載している。

本市には、水源や浄水処理等、部門的に指数が出ないところもある。

全体の分析、評価結果を掲載する。

(委員)

PI指標を出しているが、門真市の特質としては、面積が狭いということであるので、管理経費等1人当たりの経費は安くつく。

ただ全量の水を府営水道から買っており、企業努力として人件費や管理費をいかに効率的にやるか等、コストの縮減に重点をおいて取り組んでいると思う。

業務指標は一般市民や専門家も含めて、きちっと批判に耐えるような評価になる形でまとめていただきたい。

また、計画を作るときに一番大事なのが、門真市の人口予測である。

給水人口、配水量の推計というのは、人口予測に基づいて計画を立てている訳だから、何を根拠に人口予測をしたのか、第二京阪道路も完成間近だし、かなりの人口の変動があるかもしれない、人口は門真市の都市ビジョンに基づいて推計したということ等、出典を挙げていただきたい。

#### 水道事業の広域化、経営分析について

(委員)

水道事業の広域化の話が第1回の委員会から出ているが、これはまだ勉強会程度の段階なので、現状では単独で計画ということでのよいのか。

また、財務的なところで、貸借対照表については必要ないのか。

(水道局)

水道事業の広域化については、勉強会の段階であり、単独での計画として考えている。貸借対照表については、予測項目が多いので算定していない。

#### 安全・安心について

(委員)

個人的な見解で一概には言えないが、安全・安心という言葉が日常よく使われている。改めて考えると安全と安心は、違うものであると思う。

安全は事実、安心は気持ちの問題であり、安心を得るためには、安全であることの情報の開示と丁寧な説明という視点が必要である。

同時に、安心には量の確保や価格の問題も含まれる。

安全であることを情報開示して、かつ読み手の方がわかるように説明をして、始めて安心してもらえるということなので、できればこの辺は混同せずに使った方がよいと思う。

(水道局)

水道の場合、安全であることが大前提の上に成り立っている。

水質検査を行い、安全だから安心してお飲みくださいという解釈であるが、基本方針

として表現すると、安心ということになる。

安全についての情報の開示や説明する努力について、基本計画書に盛り込むことを検討する。

(委員)

問題としてではなく、安心の方が事業者側、市民側にとっても大事な問題である。安全であることは大前提である。

(委員)

安心の表示を、安全、なおかつ安心とすれば委員の意見も生かされると思う。事業計画の中に、例えば貯水槽水道を直結式に進めているとあったし、安全も表に出すと全体の説明が分かりやすくなると思う。

### 将来需要水量の推計について

(委員)

人口は門真市の都市ビジョンに基づいて推計したということだが、給水量はどうして算出したのか分かりにくい。

今、全国的な傾向として、給水人口と水量が一致しない。人が増えても水は減る傾向になっている。どのように将来需要予測したのか、一番将来において経営的に影響のある要因だと思う。将来の門真市がどうなるのか要になるので、水量予測も書いた方がよいと思う。

(水道局)

現状で推移すると人口が激減していくので、門真市では「活力あるまちなか創出都市門真」を将来像に門真市都市ビジョンを策定している。人口予測は門真市都市ビジョンで算出されている、今のまま推移した場合の人口推計を採用している。

水量は、過去5年間の実績配水量から一人当たりの原単位を算出し、計画給水人口に乗じて将来需要水量としている。

計画給水人口、将来需要水量とも年々減少する予測である。

(委員)

水量は、過去5年の実績数値に人口予測を乗じて算出したことを記載したら分かりやすくなると思う。

### 水道料金について

(委員)

節水意識の浸透で配水量が減り料金に響くと思うが、水道料金の値上げは考えていないか。4月から電気とガス代が値上げすると聞いている。

(水道局)

給水人口、配水量が減るので、水道料金収入は将来において増収することはない。

団塊の世代の退職等で人件費が減少すること、業務委託等の行革を実施してきたことの効果で、お示しのとおり、平成30年度までの経営計画においても、料金値上げは考えていない。

(委員)

料金は台所と直結するので、市民感覚としてはできるだけ安い方がいい訳だが、逆に使用量が減ってくると単価、コストが上がってきて値上げになるのではないかと思う。本委員会では、値上げ、値下げについては現状を維持して、いわゆる安心できる水道体制をつくっていくということだと思う。

#### 市民意見の反映について

(委員)

需要者サービスの向上対策のうち、市民意見の反映については、市民意見の聴取の方法として、水道アンケート、水道モニター、利き水会をあげているが、例えば、利き水会ではある程度の人にしか聞けない。

水道のモニターを門真市内の地域ごとに作っていただき、アンケート、水道のモニターという形でその意見をどんどん反映してほしいと思う。

#### 市民意見の聴取について

(委員)

現在、日本の国レベル、都道府県レベルを含め、やはり行政の透明性というか、意見を聴取して、そして評価を受ける形で進めなくてはならないと思う。

この門真市水道事業基本計画(案)について、市民意見を聴取するのか。

(水道局)

市民意見の聴取は、門真市水道事業基本計画(案)を門真市ホームページ及び門真市情報公開室にて公開し、基本計画策定の参考とするため約10日間程度、この案に対する市民の皆様のご意見、ご提言を募集したいと考えている。

その後、いただいたご意見、ご提言については、局の考え方をまとめ公表する。

(委員)

公表して10日間は、かなり短くはないか。

(水道局)

門真市ホームページや2月1日発行の広報紙で意見聴取の募集期間を周知する。

聴取の方法としては、メール、電話、投書等を考えている。

募集期間は短いですが、早急に公表し基本計画書を3月末に仕上げたい。

#### 門真市水道事業基本計画(案)について

(委員)

基本計画、全体的には非常に立派なものできたと思う。

過去には安心、安定と安全、この3つで進んできた水道事業であったが、これに持続、環境、国際、が入り全てここに網羅されている。職員の方は大変苦労されたと思う。

(委員)

市民意見を募集するのは、開かれた委員会の先例になる。

(委員)

門真市にとって重要な計画案であるので、慎重に作業を進めたい。